

第38回横浜マリノボールカップ 男子Cゾーン決勝 7月23日(日)

東希望が丘ミニバスケットボール部 61vs41 日光フェニックス

1Q

両チームともオールコートマンツーマンディフェンスでスタート。お互い厳しいディフェンスの中、日光#4がロングシュートを決め先制する。東希望が丘は、序盤ファールが嵩み流れを掴めない。日光はスクリーンから#6がポストプレーで得点を重ねる。

東希望が丘も#8がインターセプトから速攻で得点するが、4-10で日光フェニックスリードで1Q終了。

2Q

東希望が丘は#7からの鋭いパスを受け#5がドライブインで得点する。尚も#5が連続得点し10-10と同点になる。流れを変えたい日光フェニックス、#5がパスカットから速攻、#7の力強いプレーでバスケットカウントを決める。しかし東希望が丘#5の速攻、ドライブインを止めることができず、27-18東希望が丘が逆転して2Q終了する。

3Q

前半に続き両チームともオールコートマンツーマンディフェンス。開始早々、東希望が丘#8のポストプレー、#4の速攻で31-18と点差が開く。日光も果敢に攻めるが#7がチャージングで退場。尚も東希望が丘#7の速攻、#4のパスから#8の得点でリードを広げる。日光フェニックスも#4のロングシュートで得点するが43-24で最終Qを迎える。

4Q

日光フェニックスは#4のロングシュートで先制点をとる。#5、#11のドライブインで連続得点。その後もお互い激しい攻防になるが、東希望が丘#8の力強いリバウンドなどで、なかなか得点を縮められず残り3分日光フェニックスがタイムアウト。(49-32) タイムアウト後、日光フェニックス#5パスカットから得点をする。流れを変えたい日光フェニックスだが、東希望が丘#7から速攻のロングパス#5が得点、最後は#7がバックシュートを決めて試合終了。(61-41)

